仇報孫太良雪

一一六

へ13
2946
72

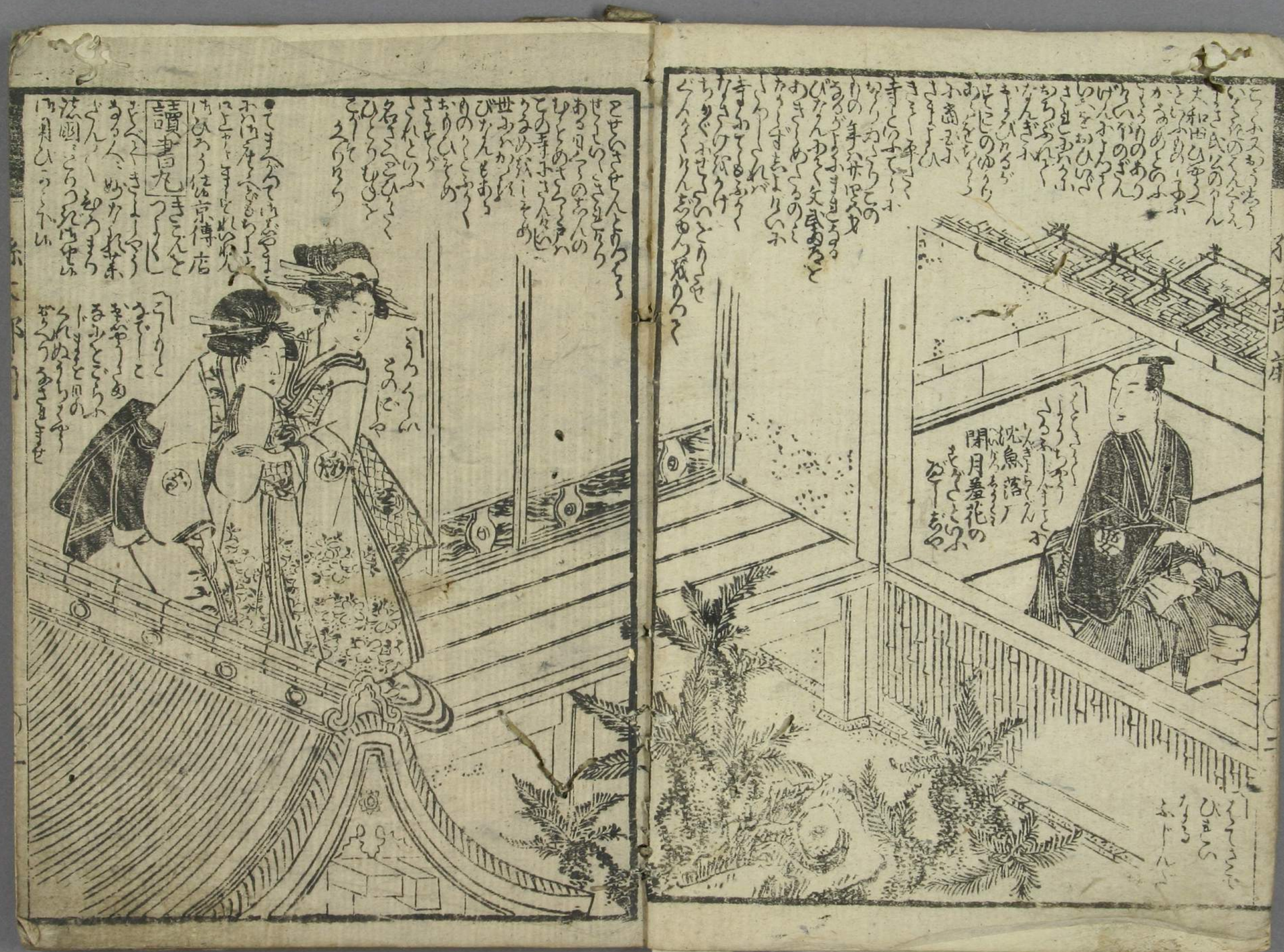
此草紙ハ。白河院の御宇。永保年中。丹波國の孝子。養父を打まゐらせ。良くより身となり。夫婦乞食となり。千辛万苦して敵のゆくへをたづねて運ひ求めて。うつ打ふわひ。其妻雪中熊の穴かゆらいつる。危難義をのがれ。出生の男子成長してつひに祖父と父との仇を報ひ。始終忠孝貞節の傳記。并ふ奥州幸川孫太郎虫の来由を録して。前編三冊後編三冊ども。前編ハ見よ。人々見るべし。後編を見ざる人々ハ。前編ハ見る。前後合して見ざれバ。首尾詳ニ知ざるなり。

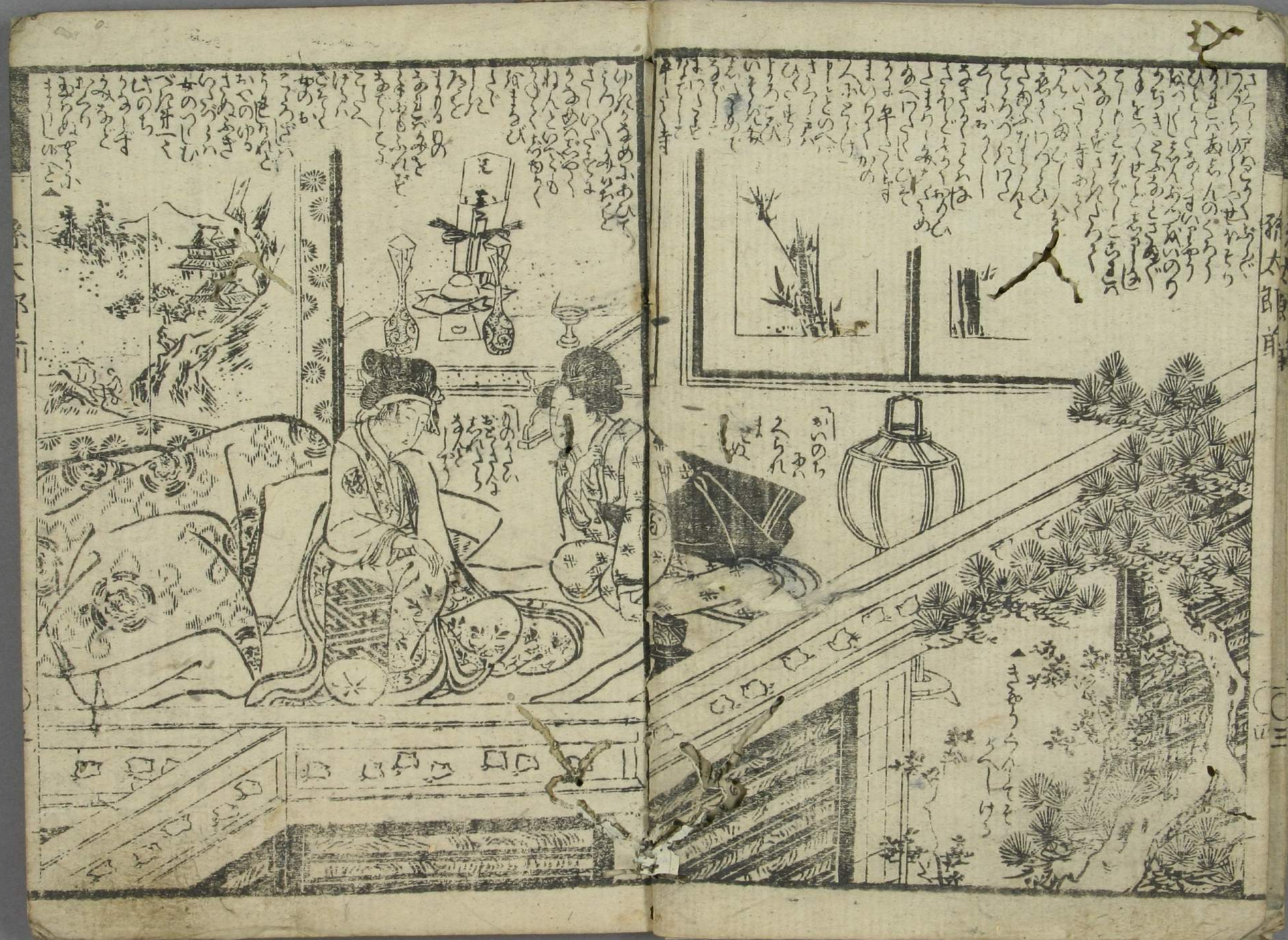
文化二年乙丑春二月著作

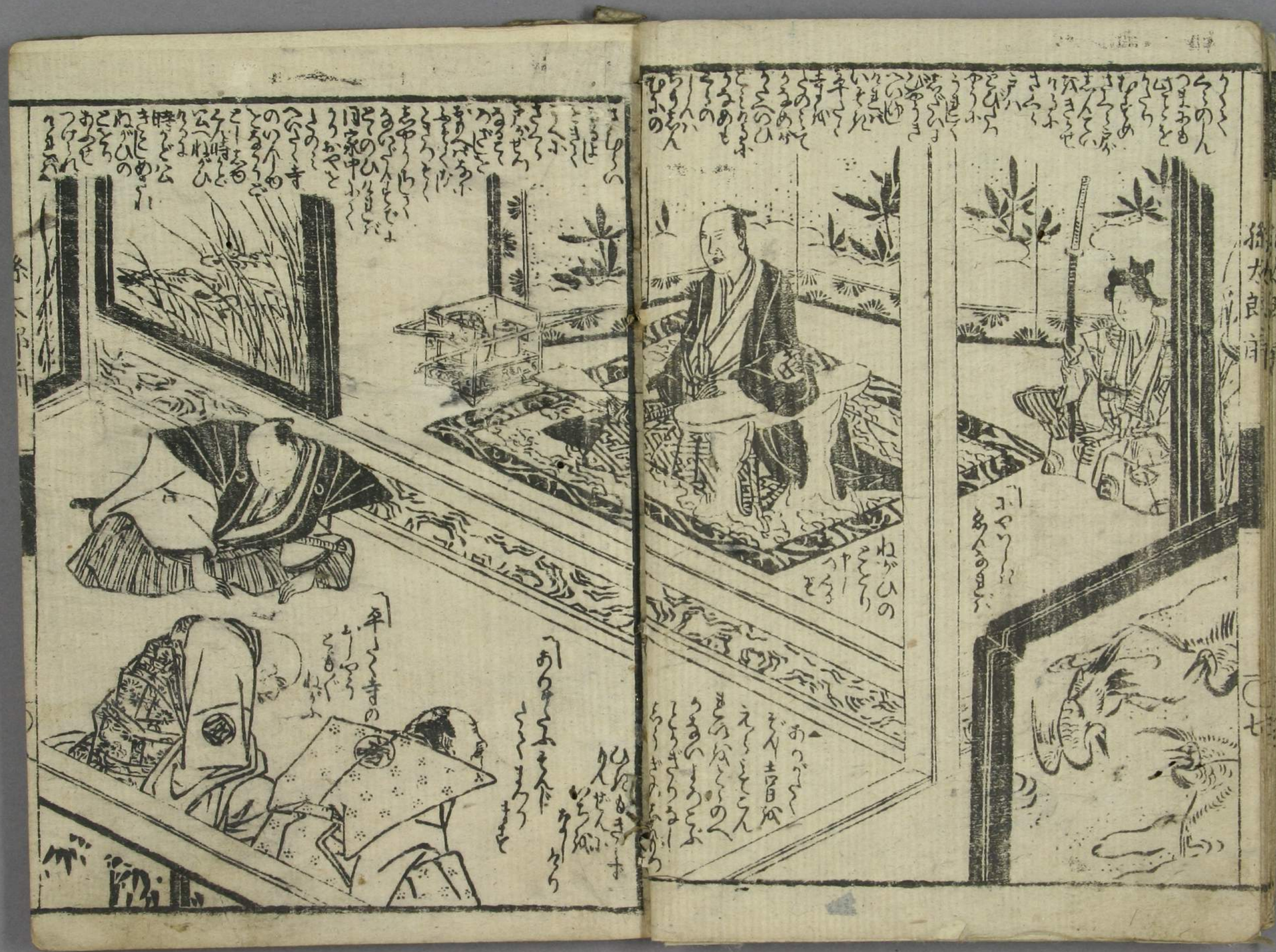
同三年丙寅春正月發兌　山東京傳誌

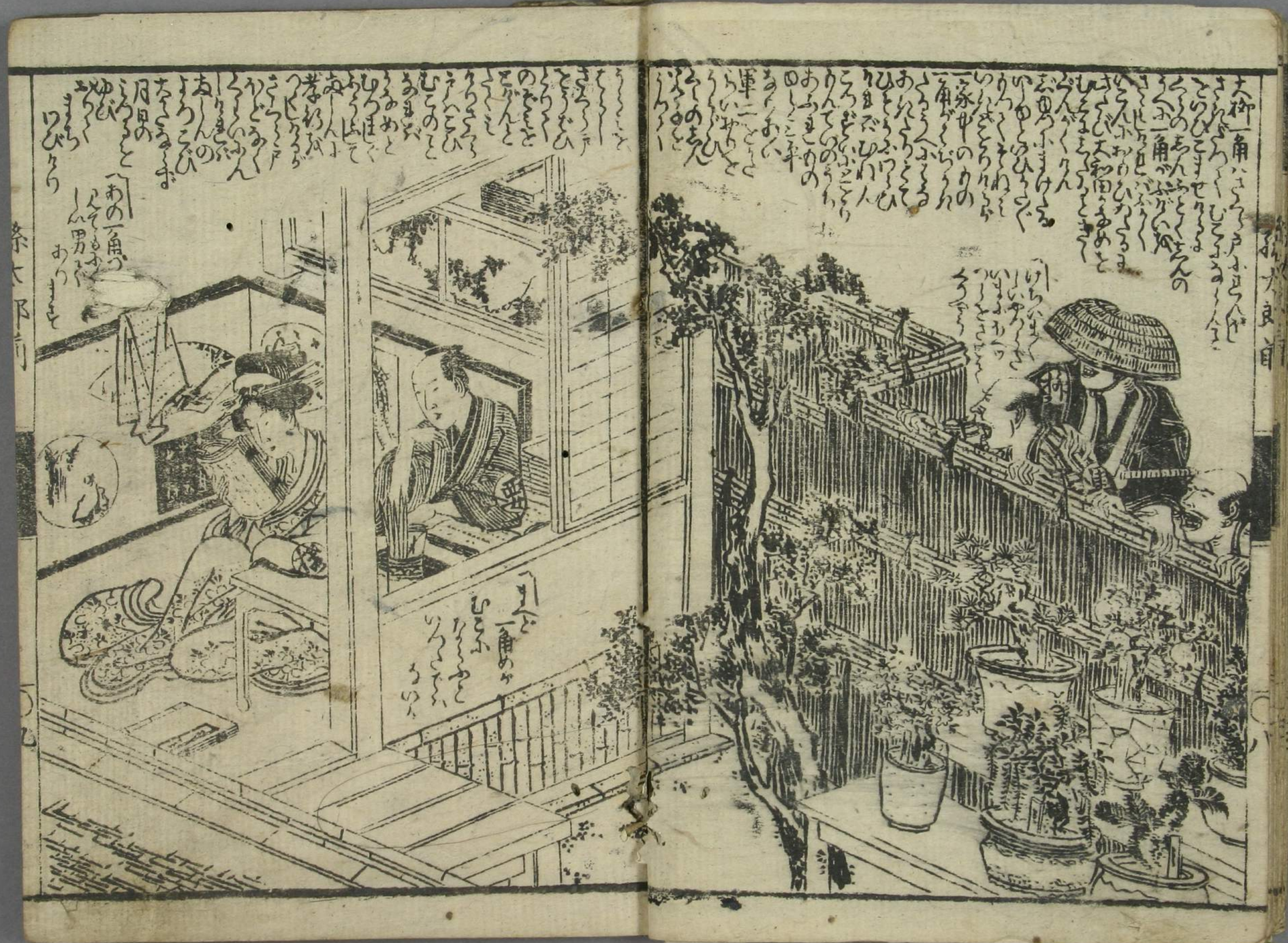
山東

前
史記
前後漢書
兵家七書


閑月蓋花の
讀書九
きこえを
つゝし







孫左衛門

豊国画

山東京傳著

敵討太郎記

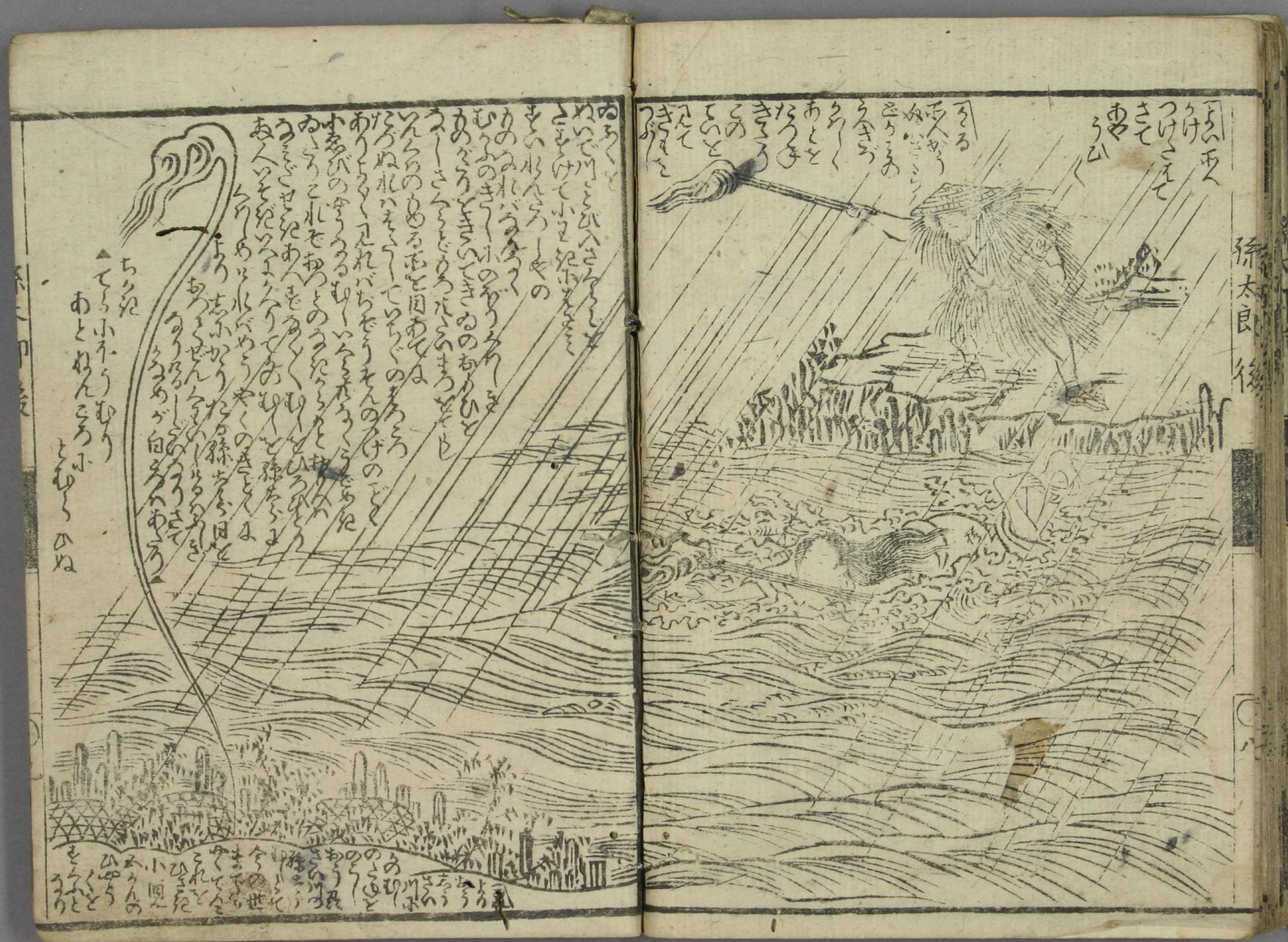
後へ三両出来

京傳著

孫大郎後

さんらぶん孫左ゑもんがびやうき
わりて今ゝこゝにいたりし
あやうきことなんてあるこも
あらしれぬきちがひの
やうにうりゐるがごとく
ゑときてあぶくんかゝ
かとけのちからと
このむろ和尚のと
とうしもつとられぬき
といふをさい川まで
うとゝろうとゝろぐんー
のちをうりざうホ
こりうこびひとんの好れ
ときてあゝごもの上
ざーにつが一金と
うて孫左ゑもんが命
十ゑもまでのがり
うこたとうこをこび
ゆんとんぶうんとおど
七月ぶんーどにていのうゐる
なの門をいうこうしき
ゑむぶをうおうろ孫左ゑもん
うろうホつが金とうろわ

國会



三界萬靈

さてもとおやこまづく
まづしきくらしみふ
そうぬてがうみ
ふうふりひんくにせねると
ふかにたのびをぬ
むろうくあもびて
くらをもてろ
ろうもをとがうみが
らでぬるをごてんせを
さんくらとハあい
おをくけのらうと
おひ孫ちらハ
山へゆきなき
末をとうて
がうみがうと
まひをくまけ
まてにんうん
のくらし
孫たちそろさ
十ヌをそろうるバ
しよくをめぐて
そんをとそのよ
それまでいをりの
通りはげしんみ

放施
風呂
助

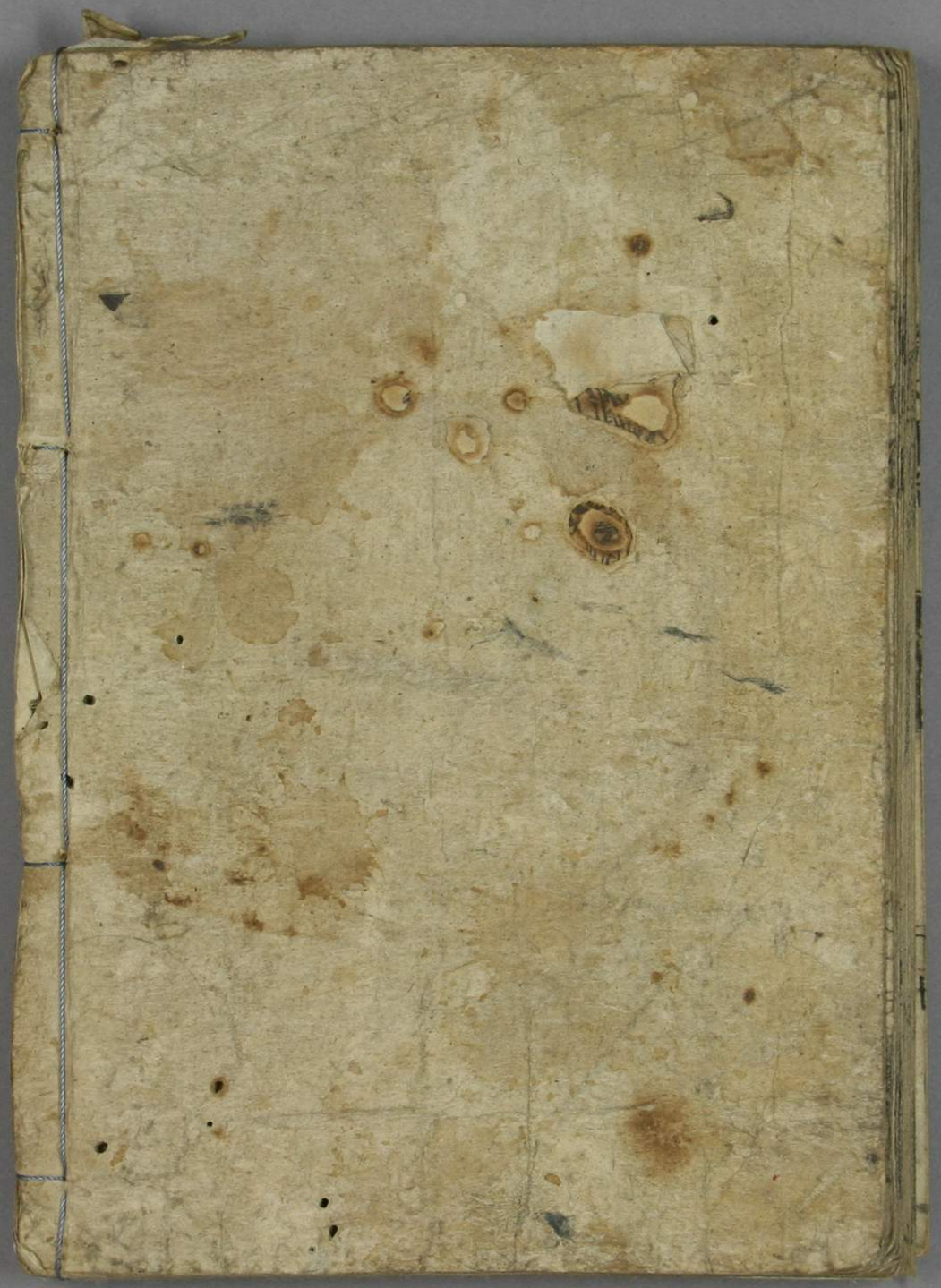
信太郎後

信太郎後

豆国画

山東京傳著

讀書丸

一色主人著

賢一賢と思きこえとつよりしあ笑人を
ちくをうゑれつきよりをきこ人老若男女と
ゑ紀くを用てよりー法ちくよ法注あり
賣所京傳店○京傳自画さん扇あり
○きよはんくをうといふぢのみかぢにぢくしよぐえで
半十とふぢゑとふぢでゐーさげな京待もうえんつとまーて